



深圳文化中心 (2007)
図書館とコンサートホールを複合した文化施設



カタール国立コンベンションセンター
(2011)
各種会議場と劇場を内包し、最先端の技術で多様なイベントに対応可能な複合施設



シティライフ・アリアンツ・タワー
(2015)
2015ミラノ万博の際に建設され、現在は保険会社の持ちビルとなっている



大分が誇る建築家 磯崎新

A R A T A I S O Z A K I

磯崎新 (いそぎ あらた)

建築家。1931年大分市生まれ。1954年東京大学工学部建築学科卒業。丹下健三研究室を経て1963年磯崎新アトリエを設立。以後、国際的な建築家として、国内外に数々の建築物を設計。代表作は、大分県立大分図書館(現アートプラザ)、ロサンゼルス現代美術館、水戸芸術館、奈義町現代美術館など。世界各地で建築展、美術展を開催し、また、多くの国際的なコンペの審査員、シンポジウムの議長などを務めた。カリフォルニア大学、ハーバード大学などで客員教授を歴任。建築のみならず、思想、美術、デザイン、文化論、批評など多岐にわたる領域で活躍。2019年米プリティカー賞受賞。

大分市名誉市民 7月16日推挙

郷土が誇る建築家、磯崎新さん(88歳)。大分市では今年、世界を舞台に建築界をリードし続け、国内外を問わず広く社会文化の興隆に貢献してきた同氏を名誉市民に推挙しました。また、平成30年には磯崎さんが所蔵していた約1万8,000冊の書籍を大分市に寄贈していただきました。このうち約2,000冊はアートプラザで、約1,000冊を市民図書館で閲覧することができます。

今回は世界の第一線で活躍する磯崎新さんの人物像や時代背景をひもときながら、国内外で設計した建築物の代表作を特集。併せて、9月27日(金)から大分市美術館で開催している特別展「磯崎新の謎」展について紹介します。